

投資情報 ウィークリー

2021/10/11



大山日ノ丸証券株式会社

金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第5号 加入協会 日本証券業協会

本レポート末尾の「投資にあたっての注意事項」をお読み下さい。

投資情報ウィークリー

2021年10月11日号
調査情報部

相場見通し

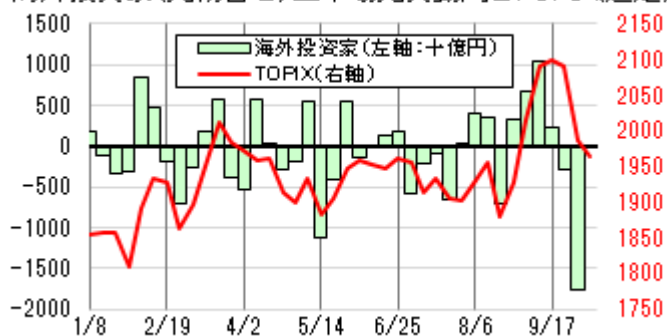
先週の日本株は急落。外部環境の悪化、特に海外要因が売り材料となり、海外投資家の先物売りが急増、TOPIXは先月27日から先週末曜日まで9日続落（2012年7月以来）し、一時1920pt台まで下落、新政権への期待で上昇した分の全てを吐き出した（下図を参照）。ただ、週末には海外要因の好転から若干持ち直している。海運、電機、空運、精密などを中心に殆どのセクターが下落した一方、金利上昇で銀行・保険、ディフェンシブの食品、エネルギー価格上昇で卸売りなどが確りだった。

日本株を取り巻く外部環境、特に海外要因は不透明要因（①中国、②米国、③サプライチェーン、④原油価格上昇、⑤その他）が未だ山積みだ。ただ、いずれも現時点では深刻な事態に至る可能性は高くないとみている。①の不動産会社の経営・過剰債務問題は、指導部・当局が北京五輪を控え、景気の大規模悪化・金融危機へと繋がらないような政策対応を行うと想定、②は、キャピタルゲイン増税、FRBのタカ派姿勢転換、コストプッシュインフレ懸念などを相場は未だ十分に織り込んでいない感があるものの、テールリスク、すなわち連邦政府初のデフォルトに至る事態は4800億ドルの引上げ法案（可決見込み）で当面回避された模様（但し12月までの問題先送り、バイデン大統領の今後の指導力に期待）、まずは一安心といったところ。③と④はやや要時間、③は新興国の感染ピークアウトから徐々に改善の方向が期待される、④は供給増加で一段の価格急騰を抑制できる他、主要国の金融政策の正常化効果（投機的売買の縮小）などが期待されるため。そのため、先週まで短期で急落した日本株はバリュエーション面で再び割安感が出てきたと思われ、押し目買いで対応したい。

今週は、IMF世界経済見通し、9月FOMC議事録、フリテイなど小売業や米金融機関の決算発表などのスケジュールがあるが、14日の衆院解散（見込み）が日本株浮上、海外投資家の見直し買いのきっかけとして期待する。また、月後半からの3月期銘柄の上期（4～9月期）決算発表に注目したい。世界経済の成長率鈍化や長引くサプライチェーン混乱からグローバルPMIがピークアウトの兆しとなっている他、商品価格上昇によるマージン悪化も見込まれ、企業業績の先行きに不透明感が漂ってきた。ただ、日銀短観（1日発表分）では、大企業・全産業の21年度経常利益計画が前回比で5.6%上方修正（前年度比17.3%の増益計画）された。下期計画は製造業で2%、非製造業で0.1%程度下方修正されたものの、製造業では円安効果に加え、自動車を始めとして需要は引き続き底堅く、挽回生産、競争力・シェアの拡大でカバーは可能とみられる。また、非製造業では国内要因が追い風になろう。新型コロナ新規感染者数が8月中旬をピークに急減、10月から緊急事態宣言が解除された他、国内ワクチン接種の急速な進展（政府は希望者の11月末までの完了を目標）、新たな治療薬（メルクや塩野義の経口治療薬など）やワクチンの開発・実用化が今後期待されるため。

先週末曜日の夜に首都圏で震度5強の強い地震があった。様々なライフラインに被害が出て、交通機関などに大きな影響が出て大混乱となった。4日発足した岸田内閣は、新しい日本型資本主義の実現という目標を掲げ、コロナ対策の一段の強化、成長と分配の好循環を強調するが、災害に強い国作り「国土強靱化」、首都機能の分散化と地方創生、テレワーク実施環境の整備なども早急に検討・実行して頂きたいと考える。（増田 克実）

海外投資家(先物含む)二市場売買動向とTOPIX(週足)



Bloomberg データより証券ジャパン調査情報部が作成

投資のヒント

☆TOPIX500 採用で東証業種別指数が 13 週・26 週の上位のセクターに属する主な銘柄群

7 日時点で TOPIX は週足の 13 週・26 週の両移動平均線（両 MA）の下位に位置している一方、東証業種別指数を見ると 33 業種中、建設、食品、ゴム製品、ガラス、銀行、保険、空運など 12 業種が両 MA の上位を維持している。下表にはそれら業種に属し、個別でも両 MA の上位に位置する銘柄を選別した。バリュエーション的に割安、取組良好な銘柄も散見され、中期スタンスで注目したい。（野坂 晃一）

コード	銘柄	株価(円)	予想PER (倍)	実績PBR (倍)	配当利回り (%)	予想経常利 益伸率(%)	信用倍率 (倍)	5日カイ離率 (%)	25日カイ離 率(%)	日足分類	13週カイ離 率(%)	26週カイ離 率(%)	週足分類	業種
1333	マルハニチロ	2625	9.8	0.92	1.52	15.8	1.66	0	-0.37	3	4.29	5.36	1	水産・農林
1332	日水	627	13	1.1	1.51	1.1	0.99	0.03	-1.22	3	3.75	11.03	1	水産・農林
1605	INPEX	895	7.6	0.47	4.46	111.8	4.89	-2.5	8.52	6	12.6	12.67	1	鉱業
1925	ハウス	3621	11	1.27	3.47	-6.5	4.11	0.14	-2.13	3	2.93	6.32	1	建設
1944	きんでん	1872	14.5	0.78	1.86	-13.6	0.19	0.04	-2.77	3	0.41	0.8	1	建設
1802	大林組	951	9.5	0.72	3.36	-23.5	3.47	1.49	0.86	2	2.72	1.29	2	建設
1928	積ハウス	2303.5	10.5	1.1	3.82	18	1.48	0.85	-1.26	3	2.01	1.91	2	建設
2002	日清粉G	1832	28.2	1.26	2.12	4.7	0.34	0.07	-2.56	3	0.97	3.84	1	食料品
2212	山パン	1914	40.3	1.25	1.14	17.6	0.51	-1.07	-0.68	5	7.83	11.81	1	食料品
2229	カルビー	2715	20.1	2.11	1.91	-0.1	0.98	0.22	-2.61	3	0.83	2.66	1	食料品
2269	明治HD	7210	11	1.66	2.21	-2.4	1.44	0	0.49	1	3.39	4.52	1	食料品
2501	サッポロHD	2567	16.6	1.24	1.63	-	0.38	0.43	1.66	1	5.73	9.67	1	食料品
2502	アサヒ	5595	18.1	1.66	1.94	66.7	2.27	1.72	2.8	1	7.67	8.95	1	食料品
2531	宝HLD	1549	22.8	1.9	1.54	32.2	0.79	-0.78	-1.43	4	6.34	7.33	1	食料品
2587	サンドリBF	4645	23.7	1.72	1.67	9.9	1.45	0.95	-0.93	3	6.28	10.23	1	食料品
2801	キッコマン	8620	56.7	5.27	0.52	-0.7	0.25	-1.05	-5.2	4	6.28	14.2	1	食料品
2802	味の素	3222	29.2	2.78	1.36	-28.8	2.74	0.21	-4.44	3	1.94	13.27	1	食料品
2875	東洋水	4875	19.1	1.49	1.84	-9.6	1.77	0.02	-1.57	3	5.38	7.64	1	食料品
2897	日清食HD	8830	29.3	2.38	1.47	-27.1	1.5	-0.15	-1.19	4	3.52	7.23	1	食料品
2914	JT	2181	14.2	1.38	5.96	-16.2	5.82	0.31	0.06	2	0.98	1.29	1	食料品
2503	キリンHD	2108.5	20.3	2.01	3.08	26.9	11.01	0.89	1.64	1	3.51	0.42	2	食料品
2871	ニチレイ	2919	16.9	1.91	1.71	5.9	0.57	0.84	-0.2	3	2.17	2.15	2	食料品
5019	出光興産	3035	10.6	0.72	3.95	29.2	3.43	0	6.03	1	11.43	12.77	1	石油石炭
5108	ブリヂストン	5130	11.1	1.39	3.31	999.9	0.93	-0.32	-2.41	4	1.88	4.34	1	ゴム製品
5201	AGC	5530	10.4	0.99	3.79	227.4	4.88	0.76	-2.39	3	6.01	9.87	1	ガラス
5214	日電硝	2652	9.4	0.52	4.14	109.3	3.2	0.42	6.76	1	7.57	3.38	2	ガラス
5232	住友大阪	3290	15.2	0.6	3.64	-43.3	0.43	3.32	4.43	1	5.83	3.72	2	ガラス
9202	ANAHD	2724.5	366.1	1.51	-	-	3.52	-4.06	-0.09	5	3.69	4.05	1	空運
9201	JAL	2512	9999.9	1.23	-	-	12.58	-3.67	0.51	6	5.94	5.02	2	空運
8306	三菱UFJ	650.8	9.8	0.48	4.14	10	7.37	1.13	1.73	1	6.33	7.02	1	銀行
8308	りそなHD	454.1	7.5	0.43	4.62	15	2.24	2.09	1.65	2	5.04	2.73	2	銀行
8316	三井住友FG	3904	8.9	0.44	5.12	23.8	13.6	1	-1.1	3	1.83	0.91	2	銀行
8725	MS & AD	3705	8.9	0.62	4.31	7.7	5.32	-0.12	-2.46	4	2.73	7.72	1	保険
8750	第一生命HD	2484.5	9.5	0.54	3.09	-13.4	17.07	1.99	3.32	1	11.14	14.91	1	保険
8766	東京海上	6025	13.1	1.05	3.56	65	1	0.75	2.53	1	8.1	11.44	1	保険
3288	オープンH	6270	11.4	2.87	1.78	24.1	2.33	-3.12	0.89	6	8.68	16.66	1	不動産
8830	住友不	3958	12.5	1.22	1.13	5.3	0.82	-1.99	0.03	6	5.59	4.86	2	不動産
9706	日本空港ビル	5380	-	2.92	-	-	1.67	-1.64	4.17	6	8.05	7.59	2	不動産
4324	電通グループ	4125	10.6	1.38	2.44	-	0.57	-0.74	-2.79	4	0.69	6.14	1	サービス
4661	OLC	17360	-	7.58	0.14	-	1.24	-3.6	0.78	6	6.53	8.12	1	サービス
6098	リクルート	6688	54.6	9.37	0.31	60.2	2.2	-0.74	-2.19	4	5.41	14.33	1	サービス
2181	パナソニックHD	2822	23.2	3.89	1.34	58.4	2.2	1.7	2.76	1	10.33	20.2	1	サービス
2371	カカコム	3745	47.6	16.87	1.06	31.3	0.61	1.87	0.96	2	8.94	13.18	1	サービス
2412	ベネ・ワン	5150	100.9	47.67	0.69	20	1.07	1.71	-1.75	3	14.93	35.3	1	サービス
2175	エスエムエス	3910	64.5	13.42	0.24	10.5	0.41	-0.58	-4.98	4	5.17	14.02	1	サービス
2433	博報堂DY	1810	25.5	1.99	1.65	0.8	0.63	-1.61	-4.28	4	0.41	0.65	1	サービス
6028	テクノプロH	3285	31.3	6.18	1.61	-15.8	0.43	0.39	-0.09	3	9.31	15.67	1	サービス
2492	インフォMT	996	535.4	20.1	0.09	-57.1	0.51	-1.6	-4.72	4	1.71	2.87	1	サービス
4681	リゾートトラ	2071	46.7	2.19	1.44	-62	1.52	-2.44	0.88	6	8.31	12.25	1	サービス

※指標は10/7日時点、QUICKデータより証券ジャパン調査情報部作成

最後に重要な注意事項が記載されておりますので、お読みください

参考銘柄

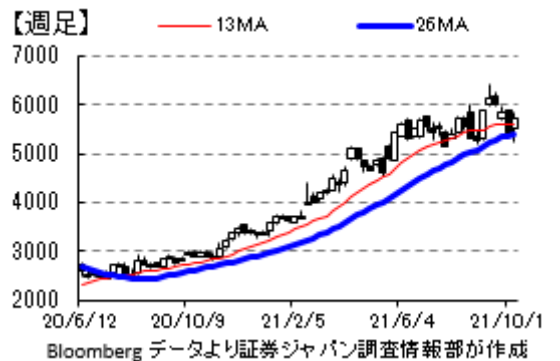
3431 宮地エンジニアリング G

2003年に宮地鉄工所と宮地建設工業が統合し誕生。2015年に三菱重工鉄構エンジニアリング(エム・エムブリッジ)がグループに加わった。鋼橋、建築、土木等社会インフラの建設・維持・補修を専門としている。22年3月期第1四半期業績は売上高が前年同期比8.0%減の127.2億円、営業利益が同17.3%増の13.3億円となった。橋梁・鉄骨、その他鋼構造物の設計、架設、維持補修などを行う宮地エンジニアリングは大型案件の受注で受注高は同67.5%増の83.0億円となった。一方、売上高は手持ち工事が進捗したものの、同19.2%減の74.7億円、営業利益は同44.5%減の5.6億円となった。橋梁、沿岸構造物等の製造、据え付けなどを行うエム・エムブリッジも大型工事の受注により受注高は同2148.4%増の105.6億円となったほか、売上高も同16.1%増の54.0億円、営業利益は工事採算の向上等で同330.4%増の7.8億円となった。22年3月期業績は売上高600億円(前期比8.6%増)、営業利益45億円(同18.2%減)を計画しており、今回修正はなかった。営業利益の第1四半期の進捗率は中間計画に対して83.6%、通期計画に対しても29.7%と高く、上振れの可能性があるだろう。主力の道路橋・鉄道橋の新設発注が見込まれるほか、高速道路や新幹線などの大規模更新・修繕工事などの保全・補修事業やハイブリッドケーソン・浮体構造物事業、シールドトンネル向け鋼製セグメント事業などに経営資源を集中し、経営基盤を強化していく。



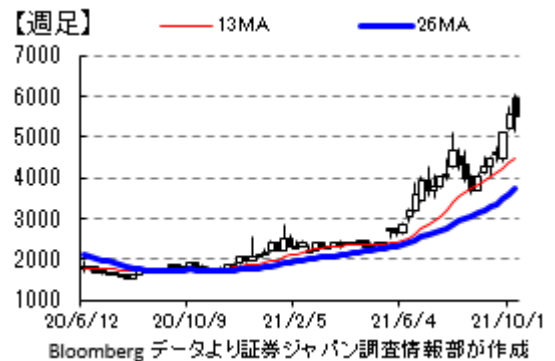
6361 荏原製作所

21年12月期第2四半期(1~6月)業績は受注高が前年同期比33.7%増の3449.2億円、売上収益が同11.7%増の2741.5億円、営業利益が同94.7%増の248.5億円となった。風水力事業では標準ポンプが建設設備市場の回復で伸びたほか、カスタムポンプも中国が好調で、国内も収益性が改善した。コンプレッサ・タービンはサービス&サポート(S&S)が減少したものの、受注は回復したほか、製品の収益性は改善した。また、冷熱分野は国内でS&Sの期ずれが発生し利益を圧迫したものの、中国市場の回復がけん引した。セグメント収益は受注が前年同期比9.7%増、売上収益が同9.1%増、営業利益が同69.8%増と好調だった。環境プラント事業は大型案件1件を受注したほか、EPC(プラントの設計・調達・建設)やオペレーション&メンテナンス(O&M)が好調で、受注高は同70.8%増、売上収益は同9.1%増、営業利益は同29.8%増となった。精密・電子事業は半導体市場の設備投資が高水準で推移したほか、コンポーネントやCMPも好調で、受注高は同66.1%増となった。売上収益はS&Sが好調で同18.6%増、営業利益は案件ミックスの改善や自動化工場の稼働による収益改善で同158.2%増と大きく改善した。会社側では風水力事業や精密・電子事業の好調を受けて、通期見通しを売上収益で従来計画比175億円増の5915億円(会計基準の変更により、前期比較なし)、営業利益は同じく105億円増の560億円(同)に引き上げられた。今期2度目の上方修正となる。また、年間配当は従来予想から30円増の130円に引き上げられた。



5699 イボキン

兵庫県たつの市揖保川町で70年の歴史を持ち、2003年に「揖保川金属(株)」から改名した。建築構造物の解体から、産業廃棄物の収集運搬・中間処理・最終処分や再生資源のリサイクル、鉄・非鉄などの再生加工・販売などをワンストップで行う総合リサイクル企業。21年12月期第2四半期(1~6月)業績は売上高が前年同期比67.7%増の42.45億円、営業利益が同208.2%増の5.88億円だった。大型解体工事の完工や資源相場の上昇が増収要因となったほか、減価償却費増にもかかわらず、経費圧縮が奏功し大幅な増益となった。通期見通しは鉄スクラップ等の相場が想定よりも上昇していることから第1四半期に続き、2度目の上方修正となった。売上高は従来計画比14.1億円増の84.75億円(前期比55.4%増)、営業利益は同じく1.28億円増の7.05億円(同115.3%増)に引き上げられた。ただ、営業利益の通期計画に対する中間期の進捗率は83.4%と極めて高く、再々増額の可能性があるだろう。今後も高度経済成長期以降の建造物の老朽化、屋内重量物(医療機械や発電機等)を有する建物の更新需要、エネルギー効率のいい設備への更新など、建築・構造物の更新ニーズは高まるとみられる。



(大谷 正之)

6367 ダイキン工業

新型コロナウイルス急増により東南アジアなどで半導体生産拠点が閉鎖になるなど、半導体の供給不足がメーカーの生産体制に大きな影響を及ぼしているが、同社ではマイコンについて、好調な住宅用ルームエアコンを中心に、その需要が20%ほど上振れしたとしても12月までの分を十分に確保できていることを明らかにしている。これは昨年新型コロナが始まった時期から部材や部品の手当てを前倒しで行い、在庫を積み上げ、供給不足を起こさないように継続的に行ってきたことが功を奏した。また、銅についてはアジアの一部を除いて今年度分はヘッジを完了しており(約80%)、生産に必要な部材の確保と、そのコストについては確定しているとしている。同社は第1四半期決算発表時に通期の営業利益計画を前回の2700億円から2900億円に上方修正しているが、これは第1四半期の上振れ分およそ200億円をそのまま反映したもので、それ以降の見通しを加味していない。第1四半期の営業利益率は13.7%とリーマンショック前の14%に迫る勢いとなっている。通期計画では10.3%に据え置いているが、足元の売価政策も順調であり、通期営業利益のさらなる上振れに期待が持てよう。

4507 塩野義製薬

ブルームバーグは、塩野義が年内の承認申請を目指す新型コロナウイルス感染症の経口治療薬について10月中に商用生産を始め、グローバル展開後は最大で年間約20億ドルの売り上げを見込む、との手代木社長インタビューを報道。同社が開発する低分子治療薬は生産工程が多く、承認を待たずして早めに作り始める必要があり、現在海外の製薬会社6-7社と協議しており、より早く製品を供給できる生産体制や供給の能力などを重視してパートナーを選んでいるという。海外では米メルクやファイザー、ロシュ(中外製薬が日本で独占開発・販売)がコロナ治療薬の開発競争に参戦。最終の臨床試験で先行するメルクは、年内に1000万人分を生産する予定を発表している。現在はそれぞれ単独で治療薬の開発を進めているが、ウイルスが治療薬に耐性を持ってしまう可能性があることを見据え、ウイルスに作用するメカニズムが異なる治療薬を開発している競合のメルクなどと連携することも「十二分にあり得る」という。

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2021-10-07/R0HBQJT0G1KW01>

(東 瑞輝)

参考銘柄

3923 ラクス

同社では 2026 年 3 月期までの 5 カ年の新中期経営目標を公表している。新中期経営目標では、5 カ年の売上高 CAGR25%から 30%、2026 年 3 月期の純利益 100 億円以上、2026 年 3 月期の純資産 200 億円以上という 3 つの目標が掲げられている。当初 4 年間は先行投資フェーズとの位置付けで、CAGR25%から 30%が達成された場合の 2026 年 3 月期の売上高は 469.6 億円から 571.3 億円となっている。なお、同社では SaaS 領域で国内外の M&A を積極的に行っていく方針を示しており、バランスシートの強化にも取り組んでいく方針を示しているが、売上高 CAGR25%から 30%の目標には M&A 効果は織り込まれていない。2022 年 3 月期は新中期経営目標の初年度にあたり、機動的に先行投資を実施していく方針であることから、通期の業績予想は開示されておらず、上期業績予想の上方修正のみ発表されている。新中期経営目標が開示され、当初 4 年間は先行投資フェーズと位置付けられていることから、当面は利益の伸び率が売上高の伸び率を大幅に下回ることが想定される。しかしながら、クラウド事業ではコロナ禍においても「楽楽精算」の販売が好調に推移しているほか、「楽楽販売」、「楽楽明細」などの新規サービスも順調に立ち上がりつつあり、同社のクラウドサービスは、テレワークなどの多様な働き方をサポートするサービスとなっていることから、現在の働き方の大きなトレンドの変化が、中長期的な事業拡大の追い風になるものと思われる。



4384 ラクスル

同社では中長期の財務目標・ポリシーとして、2021 年 7 月期から 2025 年 7 月期までの売上総利益の CAGR30%、2025 年 7 月期の売上総利益 175.0 億円から 200.0 億円、(non-GAAP)営業利益以下の各段階利益の毎年の増益という目標を掲げている。そのため 2022 年 7 月期通期の業績予想は、中長期の財務目標・ポリシーに基づき、売上高が前期比 30%以上の 394 億円以上、売上総利益が前期比 30%以上の 93 億円以上、(non-GAAP)営業利益が 10 億円以上となっている。セグメント別では、ラクスルセグメントの売上高が前期比 25%から 30%の成長、売上総利益率が 27%程度、ノバセルセグメントの売上高が前期比 40%以上の成長、売上総利益率が 16%から 17%、ハコベルセグメントの売上高が前期比 40%以上の成長、売上総利益率が 15%程度となっている。なお、通期の業績予想は、期初の事業環境、経済環境が続く前提となっていることから、経済活動の正常化により、ラクスルセグメント、ノバセルセグメントを中心に上振れが期待されるものと思われる。



(下田 広輝)

タイムテーブルと決算予定 (予定は変更になる場合がありますので、ご注意ください)

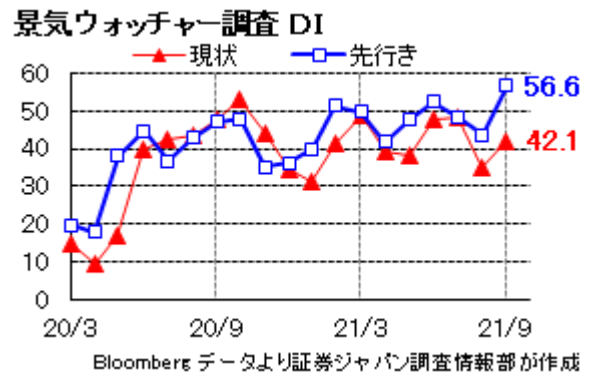
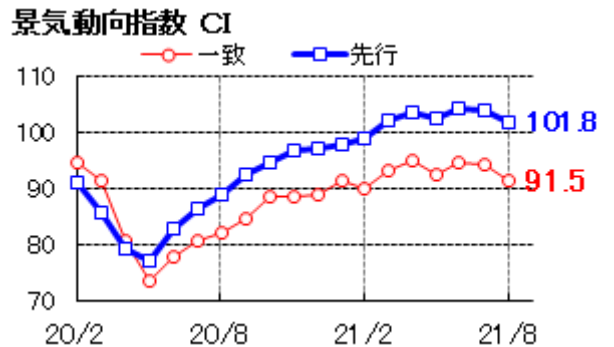
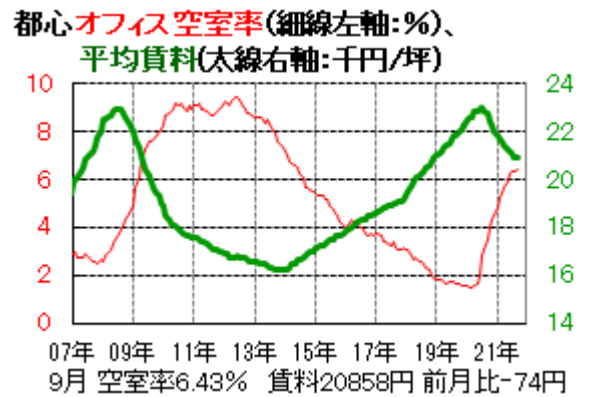
<国内スケジュール>

- 10月11日(月)
 - 8月産業機械受注(11:00、産機工)
 - 生活意識に関するアンケート調査(13:30、日銀)
 - 9月工作機械受注(15:00、日工会)
- 10月12日(火)
 - 9月企業物価(8:50、日銀)
- 10月13日(水)
 - 8月機械受注(8:50、内閣府)
 - 9月マネーストック(8:50、日銀)
- 10月14日(木)
 - 臨時国会会期末、衆議院解散
 - 上場 PHCホールディングス<6523>東1
- 10月15日(金)
 - 8月第3次産業活動指数(13:30、経産省)

<国内決算>

- 10月11日(月)
 - 時間未定 技研製<6289>
 - 【1Q】コスモス薬品<3349>
 - 【2Q】ローツェ<6323>、コーナン商<7516>
- 10月12日(火)
 - 15:00~ 【2Q】Jフロント<3086>
 - 時間未定 SHIFT<3697>
 - 【1Q】タマホーム<1419>
 - 【2Q】イズミ<8273>、東宝<9602>
- 10月13日(水)
 - 15:00~ 【2Q】コメダ<3543>
 - 時間未定 ビックカメラ<3048>、サイゼリヤ<7581>
 - 【2Q】ABCマート<2670>、TKP<3479>、
メディアドゥ<3678>、吉野家HD<9861>
- 10月14日(木)
 - 時間未定 出前館<2484>、良品計画<7453>、
USEN NEX<9418>、ファーストリテ<9983>
 - 【2Q】いちご<2337>、ディップ<2379>、
クリスHD<3387>、久光薬<4530>、
リンガーハット<8200>、高島屋<8233>、
松竹<9601>、アークス<9948>
- 10月15日(金)
 - 時間未定 ウェストHD<1407>
 - 【1Q】パソナG<2168>
 - 【2Q】北の達人<2930>、ドトル日レス<3087>、
ベクトル<6058>、ベイカレント<6532>
 - 【3Q】マネーフォワード<3994>

【参考】直近で発表された主な国内経済指標



	前回より
9月 マネタリーベース 前年比	+11.7% ↓
9月 東京CPI 前年比	+0.3% ↑
9月 東京CPIコア 前年比	+0.1% ↑
9月 製造業PMI 確報	51.5 ↑
9月 非製造業PMI 確報	47.8 ↑
9月 都心オフィス空室率	6.43% ↑
8月 景気一致指数 速報	91.5 ↓
8月 景気先行指数 速報	101.8 ↓
8月 現金給与総額 前年比	+0.7% ↓
8月 実質賃金総額 前年比	+0.2% ↓
8月 家計支出 前年比	-3.0% ↓
8月 国際収支、経常収支	1.6656兆円 ↓
8月 国際収支、貿易収支	-3724億円 ↓
9月 倒産件数 前年比	-10.61% ↑
9月 景気ウォッチャー調査現状	42.1 ↑
9月 景気ウォッチャー調査先行き	56.6 ↑

※ご注意「前回より」は前の四半期・月との比較ですが、
改定・確報とある場合は直近の速報値との比較です。
発表、報道等より証券ジャパン調査情報部が作成

タイムテーブルと決算予定 (予定は変更になる場合がありますので、ご注意ください)

<海外スケジュール・現地時間>

10月11日(月)

IMF・世銀年次総会(17日まで、D.C.)

休場 カナダ(感謝祭)、台湾(建国記念日)、韓国

10月12日(火)

英 6~8月失業率

独 10月ZEW景気期待指数

米 農産物需給報告

IMF世界経済見通し

G20貿易相会議(ソレント)

G20財務相・中央銀行総裁会議(13日まで、D.C.)

休場 ブラジル(聖母の日)

10月13日(水)

欧 8月ユーロ圏鉱工業生産

米 9月消費者物価

米 9月財政収支

中 9月貿易統計

OPEC月報

休場 タイ(ラーマ9世国王記念日)

10月14日(木)

中 9月消費者物価、卸売物価

米 9月卸売物価

9/21・22開催のFOMC議事録

EU首脳会議(15日まで、ブリュッセル)

国際通貨金融委(IMFC)

休場 香港(重陽節)

10月15日(金)

欧 9月欧州新車販売

米 9月小売売上高

米 10月NY州製造業景況指数

米 9月輸出入物価

米 8月企業在庫

米 10月ミシガン大消費者景況感指数

IMF・世銀合同開発委

<海外決算>

10月13日(水)

JPモルガン

10月14日(木)

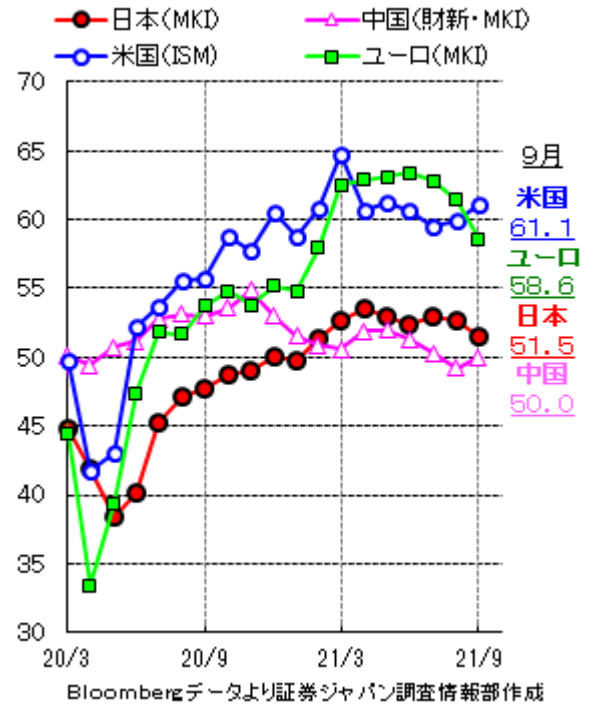
ウォルグリーン、ユナイテッドヘルス

10月15日(金)

ゴールドマンサックス

【参考】直近で発表された主な海外経済指標

各国の製造業PMI (米国はISM)



	前回より
米 8月 個人所得	+0.2% ↓
米 8月 個人支出	+0.8% ↑
米 8月 PCEコアデフレーター 前月比	+0.3% -
米 9月 製造業PMI マークイット 確報	60.7 ↑
米 9月 非製造業PMI マークイット 確報	54.9 ↑
米 8月 建設支出 前月比	+0.0% ↓
米 9月 ISM製造業景況指数	61.1 ↑
米 9月 ISM非製造業景況指数	61.9 ↑
米 8月 貿易収支	-733億\$ ↓
米 8月 製造業受注 前月比	+1.2% ↑
欧 9月 製造業PMI マークイット 確報	58.6 ↓
欧 9月 非製造業PMI マークイット 確報	56.4 ↑
欧 9月 CPI 前月比	+0.5% ↑
欧 9月 CPI 前年比	+3.4% ↑
欧 8月 小売売上高 前月比	+0.3% ↑
欧 8月 小売売上高 前年比	0.0% ↓
独 8月 小売売上高 前月比	+1.1% ↑
独 8月 小売売上高 前年比	+0.4% ↑
独 9月 製造業PMI マークイット 確報	58.4 ↓
独 9月 非製造業PMI マークイット 確報	56.2 ↑
独 8月 製造業受注 前月比	-7.7% ↓
独 8月 鉱工業生産 前月比	-4.0% ↓
独 8月 鉱工業生産 前年比	+1.7% ↓
中 9月 非製造業 財新PMI	53.4 ↑

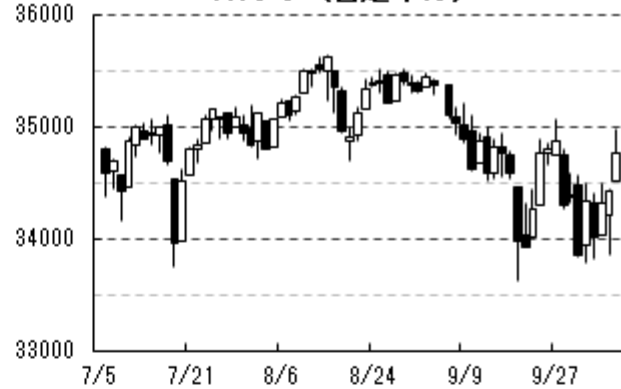
※ご注意「前回より」は前の四半期・月との比較ですが、改定・確報とある場合は直近の速報値との比較です。発表、報道等より証券ジャパン調査情報部が作成

(東 瑞輝)

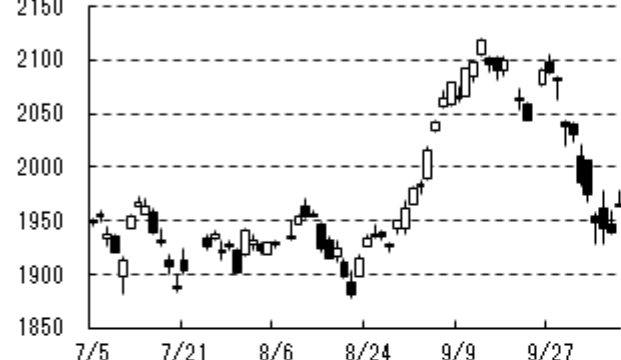
10/8 15:14 現在 日経平均 (日足:円)



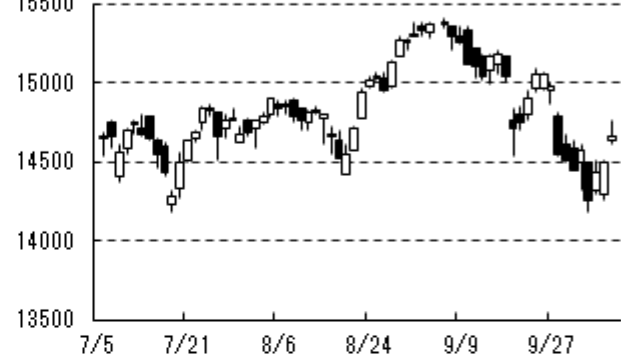
NYダウ (日足:ドル)



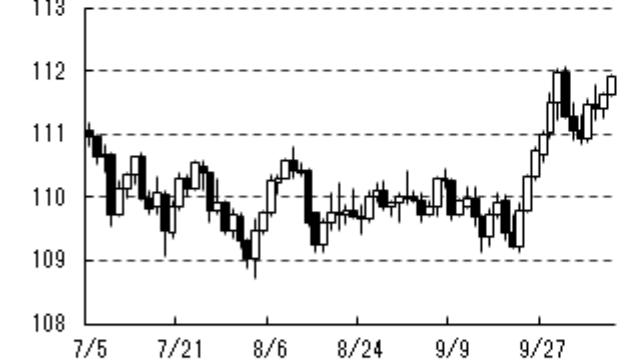
TOPIX (日足)



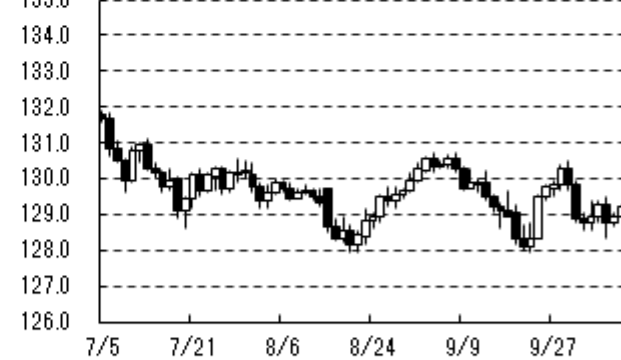
NASDAQ (日足)



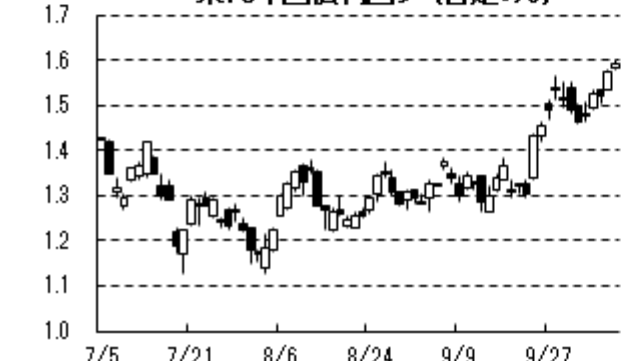
ドル円 (日足:円)



ユーロ円 (日足:円)



米10年国債利回り (日足:%)



WTI (日足:ドル)



投資にあたっての注意事項

【重要開示事項】

- 本資料は、株式会社証券ジャパン（以下「証券ジャパン」といいます。）調査情報部が、投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的として作成したものではありません。
- 執筆アナリストは、本資料におけるレポート対象企業の有価証券を保有しておらず、重大な利益相反関係にありません。
- 本資料は証券ジャパンが信頼できると考える情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性および完全性について証券ジャパンが保証するものではありません。
- 本資料に基づき投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、証券ジャパンは、理由の如何を問わず責任を負いません。
- 本資料に記載された証券ジャパンの意見ならびに予測は、資料作成時点での証券ジャパンの見通しであり今後予告なしに証券ジャパンの判断で随時変更することがあります。また、本資料のコンテンツおよび体裁等も証券ジャパンの判断で随時変更することがあります。2021年10月8日現在、金融商品取引所の信用取引の禁止措置等の規制銘柄は当レポートより除外しております。今後、金融商品取引所等により新たな規制が行われる可能性があります。
- 掲載した企業について株価の下落や発行者の信用状況の悪化等により、投資元本を割り込むおそれがあります。銘柄の選択、投資に関する最終決定はお客様自身の判断でなされるようお願いいたします。
- 本資料は証券ジャパンの著作物であり、著作権法によって保護されております。証券ジャパンの事前の承認なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行所住所等 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 1-2-18
編集発行責任者 増田 克実
商号等 株式会社証券ジャパン
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第170号
加入協会 日本証券業協会

コンプライアンス推進部審査済 2021年10月8日

【手数料等及びリスクについて】

各商品等へのご投資には、所定の手数料等（株式取引の場合は約定代金に対して最大 1.210%（227,273 円以下の場合は 2,750 円）（税込））の委託手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された販売手数料及び信託報酬等の諸経費、等）をご負担いただきます。

また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書（目論見書補完書面を含みます）等、お客様向け資料をよくお読みください。

【免責事項等】

- 本資料は、株式会社証券ジャパン（以下「証券ジャパン」といいます。）調査情報部が、投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したアナリスト・レポートであり、当社は、同社との契約に基づき、お客さまへの情報提供を目的として使用するものです。
- また、本資料におけるレポート対象企業の選定も証券ジャパン独自の判断で行っており、当社が対象企業を指定して本資料の作成を依頼したものではありません。
- 本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて証券ジャパンが作成したのですが、当社は、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に基づき投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、当社及び証券ジャパンは理由の如何を問わず責任を負いません。
- 本資料は、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。株式・債券等の有価証券の投資には、株価・債券価格等の有価証券価格の下落や発行者の信用状況などの悪化等により、投資元本を割り込むおそれがあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、本資料はお客様ご自身のためののみ、お客様限りで利用下さい。なお、当社の事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

住所等 〒680-0841 鳥取県鳥取市吉方温泉 3 丁目 101 番地
商号等 大山日ノ丸証券株式会社
金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第5号
加入協会 日本証券業協会

留意事項

この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資に関する最終決定はご自身の判断でお願いいたします。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成したのですが、その正確性、完全性を保証したものではありません。本資料に示された意見や予測は、資料作成時点での当社の見通しであり、今後予告なしに当社の判断で随時変更することがあります。